U12カテゴリー

チーム運営・母集団研修会

2022/6/11

受付18:30～　19:00～20:20

MBA宮城県バスケットボール協会　U12カテゴリー部会

はじめに

- チーム運営のための参考となるよう，ガイドラインを作成しました。

- わからないこと，困ったことがあれば，まずは宮城県バスケットボール協会に相談をしてください。

- バスケットボールが大好きな子どもたちのために，大人や地域が協力体制を整えて，チームを運営し，子どもたちを育てていってください。

本日の項目

1　登録

2　移籍

3　チーム運営

4　保護者

5　会計

6　インテグリティ

7　子ども理解と指導　親の支援

8　望ましい距離と練習時間

9　気持ちのよいチーム作り

1．登　　録

この項目は，JBA「U12カテゴリー登録・移籍運用細則」に準じ，
守っていただきたい内容となります。

（１）チーム登録

①チーム責任者

１　登録年度の4月１日現在で年齢が**１８歳以上**であること。

２　チームを代表して対外的な**窓口**となり，参加に係る**手続き**等ができること。

３　チームが競技会等に参加する場合に帯同し，チームの**最終責任者として活動**できること。

４　チームのコーチや審判を**兼ねる**ことができる。

５　**保護者の代表等が務めてもよい。**

（１）チーム登録

②コーチ

１　登録年度の4月１日現在で年齢が１８歳以上であること。
　　ただし，高校生を除く。
２　JBA公認コーチランセンスの「E級」以上を保有していること。
３　チームが大会等に参加する場合に帯同し，コーチとして活動
　　できること。
４　チーム責任者や審判を兼ねることができる。
５　複数のチームでコーチとして登録することは可能だが，同じ大会
　　で複数のチームの指揮を執ることはできない。
６　**一つのチームで複数のコーチが協力して指導することができる
　　体制づくりを推奨する。**

（１）チーム登録

③審判

１　登録年度の4月１日現在で年齢が１２歳以上であること。
　　ただし小学生を除く。

２　JBA公認審判ライセンス。「E級」以上を保有していること。

３　チームが大会等に参加する場合に帯同し，大会の審判として
　　活動できること。

４　チーム責任者やコーチを兼ねることができる。

５　複数のチームで審判として登録することは可能だが，大会
　　日程の重複などにより，活動に支障ないよう配慮すること。

６　U18審判を積極的に活用することを推奨する。

（２）競技者登録

①年齢

１　原則として当該年度の4月１日現在，年齢が１３歳未満の選手とする。

２　過年齢の選手であっても，小学校在学中の児童については登録を認めるが，当該選手の競技会等への参加については，大会要項の定めに従う。

３　当該年度の4月１日現在，１０歳未満の選手のJBA競技者登録料は無料とする。ただし，都道府県協会登録料の有無および金額については，都道府県協会の定めによる。

（２）競技者登録

②条件

１　競技者の主たる居住地から当該チームの主たる活動場所まで安全に無理なく集合して活動し，活動後は安全に無理なく帰宅できる範囲のチームであること。

※小学生に必要な生活習慣や学習時間，睡眠時間などを考慮し，遅くとも午後8時までには帰宅できることが望ましい。

２　競技者の移動中の安全の確保について，当該競技者の保護者をもって行える環境であること。

（２）競技者登録

③新規加入の手続き

１　チーム責任者が，「競技者一括登録」によって行うことができる。

２　初めて競技者登録する場合，競技者登録番号は自動的に採番される。

３　以前に別のチームで競技者登録をしていた選手が加入する場合は，以前使用していた競技者登録番号で登録する。

４　手続きの詳細は，TeamJBAを参照のこと。

（２）競技者登録

④継続加入の手続き

１　チーム責任者が，「競技者一括登録」によって行うことができる。

２　競技者一括登録を行う際は「代理登録委任状（U12）」により，選手に継続登録の意思があることを確認してから手続きを進める。

３　手続きの詳細は，TeamJBAを参照のこと。

登録を推進　＝　チーム存続を助ける

U12の喫緊の課題

○　プレーヤーの減少　、チームの減少への対応

・プレーヤーが10名（8名）集まらない。

・試合が成立しない。

⇒　**合同チーム**として試合ができる環境を保障します。

合同チーム

プレーヤーのモチベーション確保
県内チームの存続
近くでバスケットボールを楽しめる環境の担保

条件　（子供のための合同であり、指導者のためでない。強化目的でない）

・合同練習が可能な距離。　子供、保護者に大きな負担がかからない。

・合同で試合に参加する場合、メインコーチが決まっていること。

・両チームの、チーム運営を互いに尊重し合い、齟齬がないこと。

2. 移　籍

この項目は，JBA「U12カテゴリー登録・移籍運用細則」に準じ，
守っていただきたい内容となります。

（１）移籍の考え方

①JBA基本規定における移籍の考え方（抜粋）

１　移籍は基本的に自由である。
２　移籍申請者は希望する競技者である。
３　移籍元チームは移籍を承諾しなければならない。

②U12カテゴリーにおける移籍の考え方

１　2019年度より，競技環境が得られずに困っている選手を救済するため，「特別な事情」がある場合は移籍を認める。
２　上記の趣旨を踏まえ，指導者や保護者などの大人が意識を改め，育成に主眼を置いた運用をする。

（１）移籍の考え方

③移籍の運用

１　「特別な事情」とは，「転居」と「人間関係等のトラブル」とする。
２　「人間関係のトラブル」とは，選手，指導者，保護者のそれぞれの間で起こったことを含む。
３　引き続き，強化を目的とした移籍を認めない。
４　移籍回数の制限は行わないが，選手の発達段階を踏まえ，U12カテゴリーでは同じ環境で継続的に育成されることが望ましい。

（２）移籍の手続き

①手続きの種類

１　「移籍申請書」による手続きと，「登録システム（TeamJBA）」による手続きの両方を行う。

２　移籍申請書の手続きを経て，都道府県協会から移籍が承諾された後に，登録システム（TeamJBA）による移籍の手続きを行う。

（２）移籍の手続き

②書面による手続き

１　「移籍申請書」全てに記入。理由は選択。

２　移籍元・移籍先の代表者から承諾印をもらう。

３　移籍先チームの責任者が，都道府県協会に送付。

４　承諾がおりた後システム上で登録手続きを行う。

③登録システムによる手続き

１　移籍先チームの責任者が当該選手の登録を申請する。

２　移籍元チームの責任者が当該選手の移籍申請を承認する。

（３）JBAの検討課題

○理由をこじつけて、5・6年生で競技レベルの高い選手を集め上位大会（全国・ブロック大会）を目指そうとするチームがある。

表向きは、偶然移籍したように見える・・・

・現段階では、移籍回数に制限がない。（悪用を考えての移籍ではないと考えているため）

⇒今後　5年生以上の移籍は原則1回　（チームを転々とさせない）

⇒または　各大会出場条件に組み込む

（例8月末までに登録・移籍を完了していること）

3. チーム運営

チームの規約

ありますか？

（１）規模

①選手

１　各選手に**均等な活動の機会**が与えられるよう，場や時間を配慮する。

２　選手の負担が重くならないよう，**活動の質と量を工夫する。**

３　登録競技者が８人に満たないチームでは，近隣のチームと合同チームを編成するなど工夫し，活動できる環境づくりを行う。

②スタッフ

１　きめ細かな指導ができるよう，**複数の指導者を確保**する工夫をすることが望ましい。

２　低学年の選手に対しては，指導者の指示の下，保護者が指導を補助するなど工夫する。

（２）体育館利用

①配慮事項

１　練習はある程度固定した日時や場所で実施するようにし，移動による負担を避けるようにする。

２　選手の発達段階や人数に応じて，開始・終了時刻や練習時間の設定を行う。

３　小学校の体育館を利用する際は，学校側の理解を得られるよう，使い方や他競技への配慮などを行う。

4. 保護者

あなたのチームの
責任者は・・・

指導者？　　保護者代表者？

答えられますか

（０）チーム責任者の明確化

・U12カテゴリーは「クラブ」に属する　＝　責任どころが不明確

・指導者　⇔　保護者、　保護者間のトラブルが多い

・暴言暴力が多い

・・・指導者だけの問題ではない
勝ちを助長する保護者も多い

（１）役割

１　選手が自主的に活動できる手助け（サポート）を行う。
２　大会や練習試合で必要となるT.Oの指導を行う。
３　選手に前向きな言葉かけを行い，応援する。
４　活動に対する経済的な負担を行う。
５　練習や試合，大会の際に選手の指導を助ける。
６　家庭での生活を調えることを大切にし，特に食事，睡眠の管理を行う。
７　選手のサポートに必要なことや不要なことを，指導者とすり合わせを行う。

（２）保護者会

①組織

１　協力して子どもたちの活動を応援できる体制を整える。

２　会長，副会長，学年ごとの代表，会計など，その他実態に応じて役員を置き，役割分担をして運営にあたる。

（２）保護者会

②会議

１　指導方針の伝達や会計報告などが定期的に行われること。

２　チームや指導者に対する保護者の要望を聞くなど，互いの意思の疎通を図り，よりよい活動環境を整える。

３　時機や回数は，チームの実態に合わせて気風して実施する。

・４～５月等年度はじめ，登録完了後や新体制がスタートする時

・２～３月等年度の終わり，会計報告や次年度体制について話し合う時

・各大会の前後など，連携を図ることが必要な時　など

（３）意思の疎通

１　保護者は，チーム責任者や指導者と連携を図り，協働してチーム運営にあたる。

２　指導者は保護者の，保護者は指導者の言葉に耳を傾け，互いが理解を深め，子どもたちのよりよい活動につなげていく。

5. 会　　計

（１）管理方法　　規約を基に

①金額，集め方

１　集金額は，チーム運営んび必要な金額を保護者会で検討し，決定する。
２　集める際は，集金袋や銀行振込などの方法で，必ず記録が残るようにする。
３　金額や方法を決定する際は，各家庭の事情に十分配慮することが重要である。

（１）管理方法　　規約を基に

②会計報告，年度ごとの会計

１　少なくとも年度に１回は会計報告を行い，複数の目で監査等が行われるようにする。

２　年度ごとに選手や保護者が入れ替わるので，会計は年度ごとに処理するようにする。（トラブルの回避）

③会計担当者

１　担当者は出納の管理を行い，予算を執行する者とは分けておく。

２　出納の管理は必ず複数で行い，ミスを防ぐ工夫をする。

（２）使途

①使途の決定，判断

１　会費等の使途は，事前に保護者会で定める。

２　定めにない支出の可否は必ず協議して決定し，透明性を確保する。

②チームの経費の範囲

１　チームとして負担する経費の内容は，事前に規定等に定めておく。

２　チームで負担するものと，個人で負担するものを明らかにしておく。

6. インテグリティ

みなさんは知っていますか？

インテグリティに関するアンケート

令和３年度「宮城県民体育大会バスケットボールジュニアの部」に参加した指導者及び保護者代表を対象としたアンケートです。大会及び日頃の活動の課題点を見える化し，今後の活動の環境改善に生かすことを目的としています。

調査対象 ： 本大会参加チームの指導者
保護者代表2名以上

調査対象者

■ 地区

■ 男女チーム

調査対象者

■ 立場

立場
131 件の回答
55%
40.5%
指導者
保護者
審判員

■ 期間

今の立場に関わっている期間
131 件の回答
37.4%
13%
43.5%
5年以上
3～5年
1～2年
1年未満

県民大会を振り返って（全体）

■「インテグリティ」を意識した試合にすることができましたか？

■「指導行動の指針」を意識したベンチワークができていましたか？

よくできた　まあまあできた　できなかった　わからない

県民大会を振り返って（指導者）

■「インテグリティ」を意識した試合にすることができましたか？

■「指導行動の指針」を意識したベンチワークができていましたか？

県民大会を振り返って（保護者）

■「インテグリティ」を意識した試合にすることができましたか？

■「指導行動の指針」を意識したベンチワークができていましたか？

「指導行動の指針」

■ あなたのチームにおいて,「指導行動の指針」で意識したことは何ですか？複数回答可

「指導行動の指針」

■ あなたのチームにおいて,「指導行動の指針」にそぐわない気になる行動は何ですか？複数回答可

「指導行動の指針」

■「指導行動の指針」が出来ない理由として，あなたの考えに近いものをお選びください。複数回答可

「指導行動の指針」

■ U12カテゴリーの子供たちにとって大切なこと（指導者） ***自由記述***

テキストマイニング

「指導行動の指針」

■ U12カテゴリーの子供たちにとって大切なこと（保護者）

「指導行動の指針」

■ あなたのチームで行っている工夫を教えてください。自由記述

「指導行動の指針」

■「指導行動の指針」に反しないようにするために，どうしたらよいと考えますか？（指導者）

「指導行動の指針」

■「指導行動の指針」に反しないようにするために，どうしたらよいと考えますか？（保護者）

（１）インテグリティとは

①JABからのメッセージ
「クリーンザバスケット，クリーン・ザ・ゲーム」
～暴力暴言根絶～

・JBAは，インテグリティ（誠実さ，真摯さ，高潔さ）の精神に則り，プレーヤーズセンタードを実践するため，暴力，暴力的行為，暴言を根絶します。

（１）インテグリティとは

②具体的な考え方

・クリーンザバスケット：日常の環境を変える
→これからの取り組み

・クリーン・ザ・ゲーム：試合中の取り組み
→テクニカルファールの適用で，一定の抑止力となった

（１）インテグリティとは

③喫緊の目標

「CLEAN THA GAME」NO暴力暴言

・試合中のインテグリティによるテクニカルをゼロに

「RESPECT」NO暴言暴力

・コーチ，プレーヤー，審判，観客，大会運営者等，全ての人が互いをRESPECT

（２）暴言暴力の根絶

①なぜインテグリティなのか

・バスケットボールの価値の向上

・選手は暴言暴力では絶対に成長しない。「愛のムチ」はない。

・指導者を取り巻く人々の目，他の人がどう感じるか。

（２）暴言暴力の根絶

②ゲーム中

- 試合中，コーチは立たない，指示しないことを推奨する。
- 「暴言・暴力的行為」はテクニカルファウルの対象
- コーチは２つのテクニカルファウルで退場

（２）暴言暴力の根絶

③練習中

・他の選手の目，保護者の目，その他の人たちの目
・子どもたちがバスケットボールを本当に楽しんでいるか？

（２）暴言暴力の根絶

④違和感に対して修正する力（チーム力）

・保護者は指導者にリスペクト精神を。
・普段の練習が，楽しくないことへの疑問。
・見て見ぬ振りは，子どもの成長に繋がらない。
・ダメなことはダメである。
・保護者会でよりよいチームに向けた話し合い。

アンケート結果

U12 バスケットボール環境に関する保護者アンケート報告書

～子どもたちのための充実した環境構築に向けて～

JBA U12部会フェアプレー推進グループリーダー
FIBA Asia Mini Basketball Coordinator

・アンケートの目的
「保護者によるアンケートにより課題を見える化し、
今後のバスケットボール環境改善に生かす」

・実施期間
2021年3月28日～2021年5月31日

・実施方法
Googleフォームを用いたWebアンケート

・対象者
U12で活動を行っている選手の保護者
有効回答数は9332件（※回答率：6.9%）

※回答率は2020年度の競技者数に対しての割合

3）自チームの練習試合におけるコーチング

→ **試合中の暴言が、35%**(よくある15.2%、たまにある19.8%)
試合中の暴力が、10.8%(よくある4.8%、たまにある6.0%)

4）自チームの練習におけるコーチング

→ **練習中の暴言が、30.6%**(よくある13.0%、たまにある17.6%)
練習中の暴力が、9.4%(よくある4.0%、たまにある5.4%)

→ 問題のある言動行動があった場合、コーチに改善を訴えやすい環境かどうかについて、5割は訴えられない.

■ 課題：保護者の捉え方

- 試合中の暴力に問題あり＋子どもは楽しんでいる　6%
- 試合中の暴言に問題あり＋子どもは楽しんでいる　27%
- 練習中の暴力に問題あり＋子どもは成長している　6%
- 練習中の暴言に問題あり＋子どもは成長している　23%

U12カテゴリー「指導行動の指針」

U12カテゴリーから「暴言・暴力」を根絶し、子どもたちが「楽しく」プレーできる環境をつくるため、指導者の皆さんには「指導行動の指針」として、つぎのことを意識して、指導に当たっていただきたいと思います。

＜やってほしいこと＞

- はげます
- 元気づける
- 委ねる
- 引きだす・導く
- 判断させる
- 主体性を育てる

U12カテゴリー「指導行動の指針」

＜やってほしくないこと＞

- 怒る
- 怒鳴りつける
- 指示ばかりする
- 威圧する
- 判断させない
- 支配する

みなさんの指導は
どうですか？

【宮城県バスケットボール協会U12所属チーム　クリーン指導確認書】

指導者は、試合中はもちろん、日頃の練習を含め立ち居振る舞いに注意し、以下に掲げる行動又は行為を行わないことを確認し、保護者と共に子供たちの健全育成に寄与します。

１．プレーヤーに対する暴言
　（１）人格、人権、存在を否定する言葉
　　＜具体例＞最低・くず・邪魔・出ていけ・帰れ・死ね・てめえ・貴様　など
　（２）自尊心を傷つける、能力を否定する言葉
　　＜具体例＞役立たず・下手くそ・アホ・バカ　　など
　（３）身体的な特徴をけなす言葉
　　＜具体例＞チビ・デブ　　など
　（４）恐怖感を与える言葉
　　＜具体例＞殴るぞ・ぶっ飛ばすぞ・帰りたいの？・試合に出たくないの？　　など
　（５）家族に対しての言葉で子供の心を傷つける
　　＜具体例＞親の顔が見たい・親が泣くぞ・兄姉と同じで〇〇だ　など

２．暴力的な振る舞い
　（１）殴る・蹴るなどを連想させる行為　や　着衣をつかんで引っ張るような行為
　（２）プレーヤーと接近（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高圧的、威圧的に指導する行為
　（３）「おい」「こら」などと大声で高圧的、威嚇的に指導する行為
　（４）継続的、かつ、度を越えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為
　（５）物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

３．第三者が不快と感じる振る舞い・保護者の応援態度
　（１）不潔な服装、裸足やスリッパでの指導
　（２）椅子に踏ん反り返る態度
　（３）上記１～３に準じる周囲に不快感を与える親の応援態度

チーム名　　2022 年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（男子・女子）

署名１（コーチ・A コーチ・サブコーチ）
自筆

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

署名２（親の会代表）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

7. 子ども理解と指導　親の支援

ミニバスを始めた理由

＜保護者の希望＞

・体力作り
・運動能力の向上
・習い事の一つ（子供の適性を見る）
・チームスポーツをさせたい（友達作り、社会性の向上）
・家族がバスケをしていたので
・我が子には才能がある（我が子の活躍を応援したい）
・中学校の部活で活躍してほしい
・地域のスポーツはミニバスしかないから
・将来別のスポーツをする時の基礎作りのため

＜子供の希望＞

・バスケが好きだから、楽しい
・友達と一緒にスポーツをやりたい

保護者の希望、期待は様々です

「子供ために」

子供のためにとは？⇨子供の成長のために

子供の成長とは？ ⇨

身体の成長、（体格、運動能力、抵抗力）

精神的な成長（主に気持ちの面）

- **精神性**（道徳観、善悪の判断、意欲、理想・・）
- **社会性**（他人を思いやる、自分の意見を言える、他人の意見を聞く・・）
- **知性**（自分で考える力、工夫する力など）
- **理性**（感情のコントロールなど）

子供はみんな違います

＜子供の多様性の例＞

・成長の早い子、遅い子。身体的にも、精神的にも。
・得意分野（長所）と不得意（短所）なものも人それぞれ。
　長所であり短所でもあるのが個性。
・早く覚える子と、ゆっくり確実に身につける子。

◎自分が子供の頃はどんな子供でしたか？

★　親の期待を押し付けていませんか？
★　理想の子供像を我が子に期待していませんか？
★　我が子を他の子供と比べていませんか？チームの子供はみんな我が子。
★　指導者に過度な期待をしていませんか？

同じことができること・・・

子供の多様性を理解し　その子を伸ばすとは？

＜具体的には＞

・親は見守り、励まし、頑張って上手くできた事を褒める。
・過保護はダメ。子供が頑張ればできる事を自身でやらせる。
・間違った行動はしっかり注意、社会生活の基本。
・大人の手出しは最小限に、目配りが重要。
・小さなつまずきを乗り越えるのを見守る。親の我慢。
・指導者は焦らず、根気強い指導。
・指導者は子供に公平にチャンスを与える。

★親も指導者も過度な期待は子供を萎縮させる可能性あり。

得意なことを見つけ、伸ばすことが大切！

８．望ましい距離及び練習時間

何時に帰宅しているか

■ 全国統一の基準はない。

　しかし，都道府県教育委員会をはじめ，市町村，または，スポーツ少年団の指針やガイドラインで，小学生の一日の練習時間や週の練習時間を示している。

■ 学習時間や睡眠時間等を考慮し，逆算すると遅くとも20時ま

でには帰宅する必要がある。

高学年の場合（逆算）

登校　8:00
出宅　7:30
朝食　7:00
起床　6:00～6:30
消灯　22:00～22:30
食事・入浴・自宅学習　20:00～21:30
帰宅　19:30～20:00
練習　17:00～19:00（19:30）
学童保育・クラブ　放課後　～17:00
（この時間に学習もあるが）

１７:００からの指導者

チーム指導問題

練習時間　１７:００～１９:００（１９:３０）
　　指導者がつけるかという問題

指導者が来てから本格練習となると
　　１８:００以降の時間帯が伸びる
　それで，子どもの生活サイクルが乱れる
　楽しい練習は，時間的な余裕にも関係があるもの

過度な練習が当たりまえではない。
大人の経験でスパルタ練習が上手くなる，親が期待をかける矛盾

9．気持ちのよい
居心地のよい
自己肯定感を高める
チーム作りを目指して

誰のためのチームなのか

■ 主役は子供

バスケットボールは楽しい！

やってよかった。もっと追求したい！

■ プレーヤーズファースト

意欲の向上を

自己肯定感を持たせることが重要

仲間を思いやれる　　コミュニケーション力を高める

楽しい・もっとがんばりたい・・・

- 否定されない環境　　根性論は不要

- 肯定される環境　　仲間、指導者、保護者から

ナイスプレー！　そのちょうし！
おしい！　さあ、つぎ頑張ろう！　ナイスチャレンジ!
・・・今日の〇〇のプレーがよかったね。

子供たちが楽しくプレーできる環境を

はげます　　ほめる　　ほめちぎる

元気づける　　委ねる　　引き出す

話し合わせる　　質問したくなる（ねえ、どうするの）

導く　　判断させる　　主体性を育てる

U12カテゴリー　チーム運営・母集団研修会

1　困ったら　保護者間・指導者と検討できるチームに。

2　それでも困ったら地区の役員さんに相談しましょう。

3　解決が難しい場合は、県協会に相談しましょう。

MBA宮城県バスケットボール協会　U12カテゴリー部会

指導についての確認書

６月末日までに　下記まで送付をお願いします。

〒980-0803
宮城県仙台市青葉区国分町三丁目10-34
コーポすず203

一般社団法人 宮城県バスケットボール協会

専務理事　佐々木桂二　宛